

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「電子レシートと家計簿アプリを連携するシステム」
- 2) 「野菜ネット通販のオイシックス、東京・吉祥寺に店舗」
- 3) 「福島のコメは“世界中で一番安心安全”、一大消費地の首都圏でPR」

1) 「電子レシートと家計簿アプリを連携するシステム」

東芝テックと大日本印刷は共同で、電子レシートと電子家計簿を連携するシステムを開発した。みやぎ生活協同組合の21店舗で2014年1月22日から実施する実証実験で有用性や利便性を確認した後、2014年度の事業化を予定している。

通常は紙で提供されるレシートを、電子化してスマートフォンから閲覧できるようにする東芝テックの「スマートレシート」と、大日本印刷のスマートフォン向け家計簿アプリ「レシーピ！」を連携させて実現した。

スマートレシートで記録した買い物の履歴データ（購入日、店舗名、商品名、価格、合計金額）をTSV形式のファイルとして書き出して、レシーピ！でまとめて取り込む。これにより、家計簿の課題である「入力する手間」を大幅に削減できるとする。

店舗側には、レシートに使う紙の使用量の削減や、利便性の提供による顧客の囲い込みなどの利点が見込める。

なお現在のシステムでは、ユーザー側でデータの書き出しや取り込みの作業が必要になる。今後は、データを自動的に家計簿アプリに取り込む機能を搭載する計画である。

コンビニなどではレジの前に必ずと言っていいほど「不要なレシート入れ」が置かれている。レシートを不要と認めながらレジを打つ度に必ず出しているのだから、ここには大きな無駄が生じていることになる。また必要な人にとっても財布の中がレシートだらけになるのは避けたいものだろう。この取り組みは時代に合った良い改革だと思う。電子化によって無駄とわかっていながら今まで見てみないフリをしていたものがどんどん片付いていきそうだ。

2) 「野菜ネット通販のオイシックス、東京・吉祥寺に店舗」

野菜のインターネット通販を手掛けるオイシックスは24日、JR吉祥寺駅（東京都武蔵野市）に隣接する商業施設内に店舗を開いた。これまで小規模な2店を運営しているが、有機栽培した野菜を幅広くそろえる本格的な店舗は初めて。今後同様の店舗を増やして、通常ネットで買い物をしない顧客を取り込む。

新たに開業した「オイシックス クレイジー フォー ベジー」の店舗面積は約270平方メートル。これまでの小型店と比べて4倍の規模だ。産地にこだわった野菜や果物200品目に加えて、卵や牛乳、プライベートブランド（PB）の野菜ジュースなど700品目程度をそろえる。

「岩国れんこんと焼きトマトハンバーグ」など野菜を豊富に使った総菜も20種類扱う。店内に約20席設けたイートインスペースで食べることも可能だ。オイシックスは現在、売り上げの9割以上をネット通販が占めるが、今後出店を続けて、店舗の売り上げを3割まで拡大したい考えだ。

ネット専門店が実店舗を出し、その実店舗が大きくなれば既存の小売にとって「異業種」ではなくなってくる。コンビニ・スーパー・百貨店・ドラッグ・飲食...様々な垣根がどんどん

あいまいな物になってきているが、これからはより細分化された中での境がなくなっていく、ますます競争が激しくなっていくのだろう。奇をてらって注目を浴びることが重要なのではなく、その先の消費者にとって良い店・必要な店にすることが肝心なのを忘れてはならないが、進化を続ける日本の小売の未来がますます楽しみでもある。

3) 「福島のコメは“世界中で一番安心安全”、一大消費地の首都圏でPR」

福島県は26日、東京都江東区のイトーヨーカドー木場店で、県産米の安全性をPRするイベントを開催した。会場には佐藤雄平知事も駆けつけ「生産、流通、消費の各段階で検査しており、世界中で一番安心安全の農産物と自負している」と安全性を強調した。

佐藤知事によると福島第1原発でトラブルが発生する度、近隣の温泉宿で予約がキャンセルになるなど、県内の風評被害はいまだ根強いという。このため3月11日で東日本大震災から丸3年を迎えるのを前に、一大消費地の首都圏で直接消費者に安全性をアピールすることによって、消費拡大につなげる考えだ。

イベントでは佐藤知事やJAグループ福島の庄條徳一会長が、全袋検査を行っているコメの検査態勢などを説明。タレントの安めぐみさんとともに2013年の県産米「天のつば」で作ったおにぎりを試食し、来店客に天のつばや県産のリンゴを配布した。

福島県とイトーヨーカドーはこれまでも、県産の農産物の販売促進や風評被害の払拭を目的として、共同で店頭での取り組みを実施している。この日、会場では福島県産米の販売も行われた。

福島の食べ物と聞くと身構える人は多いかもしれない。ただ、この記事にもある通り、全ての項目で検査をパスして消費者の手に届く商品はむしろ「保証書付き」のようなもので、逆に安心と言うのも頷けた。最近ニュースで良く目にする「偽造」や「改ざん」。これを1つでも出してしまうと信用回復はとてもむずかしいと思うので「福島産は安全」というブランド力を保つために頑張りたいと思った。